

## 保育としての身体技法の育成に関する研究

－「あやす」「なだめる」技法を手がかりに－

岩田幸子\* 中谷奈津子\*\* 横井志保\*\*\* 渡辺 桜\*\*\*\* 村岡眞澄

### 〈研究目的〉

保育者の実践的指導力向上に関する研究の一端として、どのような実践的指導力が幼稚園や保育所など実践の場から求められているかを追究した。<sup>1) 5)</sup> その結果、子どもの気持ちを感じ取れる人間性や子どもと触れ合う中で子ども理解を深めることなどが最も基本的な専門性として示された。同時に、一人の人間としての常識的な振る舞いができない、とっさの対応ができない、雑巾が絞れないなどの生活力がない、子どもを上手に抱けない等々キャリアの少ない保育者の身体性に関わる問題性が多く指摘された。保育者としての実践的指導力を、保育のプロセスを大切にしたり、子どもと共に学び合い創造するという視点から捉えることは重要であるが、基本的な身体の動きや身のこなしが十分に獲得されていないことについては、保育者を養成するサイドから問題意識をもち対応すべきであると考え。とりわけ乳児など年齢の低い子どもとの関わりにおいては、保育者が醸し出す雰囲気や動き・所作といった“身体性”に関わる要因は重要である。これまでも教師や保育者の身体性の重要性については指摘されており、<sup>2) 7)</sup> 教師に必要な身体形成の具体的な方法についても言及されている。<sup>6)</sup> しかし、具体的な実践の場で求められる保育者の具体的な動きや所作については、あまり重要視されてこなかったこともあり研究もほとんど行なわれていない。もちろん保育者の動きや所作は、感情や認知といった心理的な側面のみならず、いわば保育者の全体の現れとして捉えられるものであるので、抽象化された身体技術とか単に外に現れた動きの形だけを切り離して問題にするのではないことはいうまでもない。このような意味合いと、保育技術の一つという位置づけ、またどちらかといえば、これまで生活経験の中で知らず知らずのうちに獲得され伝承されてきたスキルという性格を示すために、ここでは身体技法<sup>註1) 3) 4)</sup> という概念を用いたい。

保育の中での様々な身体技法を獲得する(身につける)には、まず、それらの望ましいあり方を理解する(わかる)ことが大切である。本研究の究極の目的は、様々な身体技法の育成のあり方や方法を追究することであるが、その第一歩として、ここでは低年齢児において出現の多い「あやす」と「なだめる」技法<sup>註2)</sup> を中心に取り上げ、実際の保育場面の中で望まれるあり方を探りたい。研究の主たる方法は観察法であり、熟達した保育者とキャリアの少ない保育者との比較考察をするとともに、保育事例も参考にして分析を行った。

---

\* 椋山女学園大学 助手 (非常勤)  
\*\* 金城学院大学 大学院生  
\*\*\* 一宮女子短期大学  
\*\*\*\* 名古屋文化学園保育専門学校 講師 (非常勤)

## 〈研究方法〉

### ① 保育観察

観察期間：2000年11月～12月

この期間に3回の観察を行った。

観察対象：愛知県T市内公立保育園、私立保育園およびT町立保育園計3園の0～1歳児担当保育者15名

観察場面：子どもが昼寝の後、起きておやつを食べ、遊び始めるまでの約1時間30分～40分

観察方法：異なる3園での観察ごとに、発表者の5名それぞれが任意にキャリアがあると感じられた保育者と、キャリアがあまり感じられなかった保育者各1名を選び、「あやす」「なだめる」技法を中心とした動き・所作を記録する。観察後、それぞれの記録を基に観察者において協議し、共通に捉えられた望ましい技法の特性を抽出する。

### ② 保育事例の分析

0～1歳児の保育事例（食事場面）を分析し、①の方法での分析の参考とする。

## 〈結果と考察〉

### 1 「あやす」「なだめる」技法のキャリアによる違い

観察したパートタイム勤務者を含めた15名の保育者の内、キャリアを感じさせられたと判断した保育者は観察者全員で一致しており2名であった。熟練した所作の把握にみられた評価の違いは、第1回目の観察では、キャリアを感じさせる保育者ばかりで、それぞれ一定のレベルを超えた所での所作の評価となったことによるものと思われる。2回目以降の判定では、かなり明確に違いが捉えられた。このことから、キャリアのある保育者の熟達した技法というものが程度客観的に捉えられることが明らかとなった。また、観察者において回を追うごとに保育者の動き・所作の把握が容易となったことから、観て分析することによる学習効果の結果、判断に一定の安定性が得られた。

資料1、資料2は「あやす」「なだめる」ことが必要となった場面を中心にして、キャリアのある熟達した保育者の保育と初任者の保育の記録を、比較対照的に示したものの一部である。このようにして5名の観察者の記録を集約分析し、対比的に捉えられた技法の特性を表1のように5つに分類した。この表に示した動き・所作は「あやす」「なだめる」とは直接関係ないと思われるものもあるが、いずれも昼寝から起きて少しぐずったり、排泄の後おやつ席につくとといったように動作の移行にとまどったり、友だちとトラブルがあって泣いたりした後の子どもへの対応を示したものである。最も違いが明確であったのは、キャリアのある保育者の対応には、抱く、手を握る、身体接触するなど子どもを包み込むといった親密さがあるのに対して、キャリアの少ない保育者は口だけの対応であったり、投げやりといった感じさえみられた。これらは子どもとの心理的距離の違いとして捉えられる。その他、表1に示したように、「とっさの対応力」「軽快さ」「忍耐・子どもに適した対応」「柔らかさ」が動き・所作の特徴として共通に捉えられた。

表1 「あやす」「なだめる」比較対照表

	保育のキャリアが感じられた保育者		保育のキャリアが十分と感じられなかった保育者	
	言葉がけ	動き・動作	言葉がけ	動き・動作
親密さ・心理的距離の近さ	「大丈夫。さ、おしっこ出るかな～。いい？出ないね」 「おいしいおいしい。わかったわかった。食べる？おいしい？よかった。」	抱いて座らせ、後ろから手を握っている  泣きそうな子に自分の分けながら別のクッキーをあげる。ゆらす。頭と頭をくっつける。 (子どもは機嫌がよくなってきた。)	「そうちゃんアンヨないないして」  「食べる人、手を洗ってきてください」	離れたところから違う仕事をしながらいう  声をかけるだけで、一緒について行かない。後ろから見守ったりもしない。 椅子の中から子どもを荒っぽく引っ張り出す。
とつさの対応力	子どもの世話をしながら、他の保育者にテキパキと指示する。	子どもが怒って、からの器をひっくり返す。サッとお茶の入ったコップを前に置く。こどもたちがおもちの取り合いをすると(3つ巴で)、1人の子どもをサッと膝に乗せる。	「ネ、怒っとるよ」  「ちょっと待ってって！」	自分は座ったままで、他の保育者を促す。
軽快さ		常に正座でいつどこへでもすぐに動けるような体勢。	「よいしょ、よいしょ、よーいこらしょ」	座ったまま、黙って子どもを椅子の中から引っ張るように出す。
忍耐・自立を促す	「〇〇ちゃん、パンツははけるでしょう」 「やっておくんないまし」	できない子どもには手際よく服を着せるが、できる子どもには自分でさせる	(子どもが菓子の袋をはずすと) 「何持ってるの」(強い調子で)「パッチン、もうないの」	子どもが嫌がっている状態でも、むりやりつける。 すぐせわしそうに他の子どものところに行く。
柔らかさ	「いやなの。いらない？ほんとにいらない？じゃ、食べなくなったら手を出して。小さくしてあげようか？いやか。そうかそうか。じゃ、先生が食べるからみてて。」	おやつがいらなくてのけぞる子を膝に抱きかかえる。トントンと背中をたたく。子どもの代わりに答える。子どもが泣き出す。先生の膝に顔を隠す。抱いてそれとなく話し掛ける。	「ゆうちゃん、まだ口の中に入ってる。パッパッパ。」 「Y君、椅子しまいたいんだけど」	子どもの口を乱暴に拭く。 パンパンと乱暴に乱暴に片づける。 自分のことに一生懸命で、帰る子どもに知らんぷり。

## 2 熟達した技法の特性

5名の観察者によって共通に捉えられた熟達した技法の特性を具体的に示すと以下の通りである。

### (1)親密さ（心理的距離の近さ）

子どもに寄り添い、時にやさしくさりげなく体に接触する。

### (2)とっさの対応力

目配り、気配りが十分で何か起きた時もあわてずに冷静な対応ができる。

### (3)ゆったりとしながら軽快

ゆったりとゆるやかでいながら、ドタツとしておらず軽快である。

### (4)待つ姿勢（自立を促す）

子どもが嫌がっても、必要なことであれば怒らずに忍耐強く待ちながらするように促す。

### (5)柔軟性

心の柔らかさに裏づけられた柔らかい動き。（リズムカルで流れるような動き）

## 〈まとめ〉

以上の結果から「なだめる」「あやす」技法において、熟練した技法をさらにまとめてみると、「子どもとの距離の近さ」「どっしりゆったりとした中の素早さ」「柔らかさ」の3つとすることができる。このような熟達した保育者の身体性がどのような条件において可能になるのか、さらに深く追究して具体的な動き・所作のレベルで認識し意識化することが必要となる。このような作業が次の獲得する（「できる」）というステップへの移行に効果的かどうかについても、ある程度予測が得られたが、この検証については今後の課題としたい。

## 〈註および引用・参考文献〉

註1) M.モース (Mauss,M) によれば、身体技法とは社会的に意味づけられた身体活動であり、「人間がそれぞれの社会で伝統的な態様でその身体を用いる仕方」のことをいう。

アプリアリなものとしてビルトインされているわけではなく、ある特定の民族や文化や社会のなかで経験を通じて形成されていくもの。泳法なども入る。

### 註2) 「あやす」

アヤナスの略か：きげんをとってなだめる、手なずける

愛し（あやし）：愛玩する、かわいがる

「宥める（なだめる）」

ノドム（和む）

ナタム（和撓）

意味：なだらかにする

・ある人の行為について、それを憤慨している他の人の心を穏やかにするように計らう。

・人の心、精神状態などを穏やかな状態にする、和らげる、静める

（日本大辞典刊行会 日本国語大辞典 第一巻 小学館 1967）

1) 愛知教育大学「教師（保育者）の実践的指導力」調査研究プロジェクト編 教師（保育者）・子どもが語る「指導力」 1998

2) 榎沢良彦 園生活における身体の在り方 保育学研究 35—2 1997

3) 生田久美子 認知科学選書14「わざ」から知る 東京大学出版会 1987

- 4) M.モース、有地、山口訳 社会学と人類学Ⅱ 弘文堂 1976
- 5) 大岩みちの他 保育における実践的指導力の育成に関する研究－(1)園など受け入れサイドの保育者が求める実践的指導力について－ 愛知教育大学幼児教育研究第8号 P13～33 1999
- 6) 齋藤 孝 教師＝身体という技術 世織書房 1997
- 7) 牛山栄世 学びのゆくえ 岩波書店 2001

資料1

観 察 日	平成12年12月12日	観察対象者 (クラス)	0歳児 たまご組
観 察 場 所	私立T保育園	観 察 者	M・M

キャリアが感じられた保育者			初任もしくはキャリアが感じられなかった保育者		
時 間	言 葉 が け	動 き ・ 動 作	時 間	言 葉 が け	動 き ・ 動 作
15:00	<p>(ぐずっていた子どもに) 「キラキラ光る、お空の星よ」</p> <p>「Tちゃんすごい」</p>	<p>子どもと歌を歌いながら、楽しそうにおもちゃで遊ぶ</p> <p>手をたたいて、這ってくる子どもの方に手を差し出す</p> <p>横でヨチヨチ歩いている子どもに、手を差し出す</p> <p>トイレに連れて行ってズボンをはかせる。</p>	14:35	<p>(子どもがお菓子皮袋をはずすと) 「何持ってるの」 (強い調子で) 「パッチン、もうないの」「ご馳走様よ」「おんり、おんりして」</p> <p>「ヨイショ」 (子どもが、お菓子が口の中にいっぱいになって困った様子) 「いっぺんに入れるもんでよー」</p> <p>「ヨイコラショ」</p> <p>「ヨイショ」</p> <p>椅子の中の子どもが本気で泣き出す</p> <p>「ヨイショ」</p> <p>「Yちゃん、まだ口の中に(食べ物)入ってる」</p>	<p>黙ったままで、子どもの口にお菓子を押し込むようにする 座らせる</p> <p>口だけで言って、部屋の隅に行き、メモする。メモを取った後、子どもがおやつを食べている方に移動する。</p> <p>と言って、乱暴に椅子に座り直させる。一人の子どもを見ていたかと思うと、すぐせわしように他の子どものところに行く</p> <p>抱っこして(かかえる感じ)トイレに連れて行く</p> <p>戻ってきて座る。リングを入れたお皿を机の上にドンと置く(勢いでリングが飛び出す)</p> <p>座ったまま、黙って子どもを椅子の中から引っ張るように出す</p> <p>椅子の中から、荒っぽく子どもを引っ張り出して座らせる。</p> <p>ちょっと嫌そうにしながら</p>

	「ゆかりん」	<p>やさしい口調で子どもに声をかけながら、ちょっと周りを片付けて部屋を出て行く。</p> <p>戻ってきて、リンゴのすったのを食べさせる。 リンゴの汁をスプーンに入れ、子どもの動きに合わせながら、スツという感じで入れる。</p>	15:00	<p>「だって口動かさんだもん」</p> <p>「鼻水つけないでね」</p> <p>「Y君、椅子しまいたいんだけど」と子どもを急がせる。</p>	<p>子どもの口を乱暴に拭く すでに席についている5人の子どもに、リンゴのすったのを<u>放り込むようにして</u>食べさせる</p> <p>子どもと距離をとり、鼻水がつかないようにする。</p> <p>Hちゃんに、やはり<u>放り込むようにして</u>ミルクを飲ませる。</p>
--	--------	---	-------	--	--

資料2

観 察 日	平成13年2月5日	観 察 対 象 者 ( ク ラ ス )	乳 児
観 察 場 所	T町立M保育園	観 察 者	M・M

キャリアが感じられた保育者			初任もしくはキャリアが感じられなかった保育者		
時 間	言 葉 が け	動 き ・ 動 作	時 間	言 葉 が け	動 き ・ 動 作
2:20	<p>(他の保育者にテキパキと指示しながら)</p> <p>「〇〇ちゃん、パンツははけるでしょう」</p> <p>「やっておくんなさいまし！」</p> <p>(子ども達、おやつテーブルにつく) 「お手手をポンポン。いただきます」</p>	<p>起きた子どもに寄り添っている。 トイレに行ってきた子どものオムツをつけ替える。 次に起きてきた子どもの顔にチュ・とする できない子どもには手際よく服を着せる。 できることは、自分でさせる</p> <p>1歳児の子どものうち、できそうな子には、自分でエプロンをつけさせる</p>	2:43	<p>「ネ、怒るとるよ」 子どもに「ちょっと待って！」</p> <p>「食べる人、手洗ってきて」</p>	<p>少し疲れた感じで、起きてきた子どもの世話をしている。 <u>投げやりな感じ</u></p> <p>自分は座ったままで、他の保育者を促す</p> <p>遠くから声をかける</p> <p>畳の部屋の方の掃除をするが掃除機を激しく振りながらバタバタ音を立てる</p>

2:50	「りんちゃん、お先にいただきます」(やがてみんな、おやつを食べ始める)	まだ上手に食べられない子どもに、 <u>後から上手に食べさせる</u> 少し前まで泣いていた子どもの方を見ながら			子どもが嫌がっても無理にエプロンをとる。 つきはなした感じでパンパンと乱暴に片付ける
3:00	「〇〇君はなんで泣いたの？」  (子ども達が観察者を意識して落ち着かない様子) 「今日はね、お客さんが3人みえてるよ」				
3:20	(子どもが痛いと言ってくる) 「どこでやったの」 (答えを聞いて) 「トホー」  「独り占めしちゃいかんでしょう？」  踊りながら、早く帰る子どもと母親に声をかける	その子どもの手を両手で包んで握ってやる  おやつが終わって、部屋で本を読む 子どもたちがおもちゃの取り合いをする(3つ巴で) <u>1人の子どもをサッと膝に乗せる。</u> 途中で帰る子どもにバイバイする。 音楽をかけて子どもと楽しそうに踊り始める。 <u>動きがとても上手で、子どもたちも楽しそうに踊る。</u>			自分のことに一生懸命で、帰る子どもにも知らん振り。
				「お茶こぼした人」	

資料3

子ども (K) の活動	保育者の援助
10:40 椅子に腰掛ける。エプロンをしてもらう。 スプーンを持って食べ始める スプーンですくってひたすら食べる	調理室から食事をもらってきて配膳机に置く。 Kの前におかずの器を置く。 「Kくん、いただきます」「パッチン」 Kのおかずを食べやすいように小分けする。
10:45 ひたすら食べる おかずを口に入れてもらう	(中略) 配膳机からパンをとってKに与える 「ちょうだい」 Kがもっていたスプーンを取り上げる。 <u>お茶の入ったコップをKの前にサッと置く</u>
怒って空の器を引っくり返す 両手でコップを持ってお茶を飲む	